

その他

1 神奈川県水産総合研究所研究報告第 10 号の発行（平成 17 年 3 月）

No.	タイトル	著者
1	東京湾へのマアナゴ葉形仔魚の来遊	清水 詢道
2	神奈川県におけるヒラメ水揚げ尾数の推定	一色 竜也 相澤 康 中村 良成
3	両中層網の網成りと側張強度に関する研究	石戸谷 博範
4	三浦半島小田和湾の海草藻場における多毛類 . 2000 年の調査結果	西 栄二郎 工藤 孝浩
5	アマモ場再生イベント参加者への啓発効果の測定	小川 砂郎 工藤 孝浩
6	1975～2003 年度に東京湾と相模湾で発生した赤潮	鎌滝 裕文
7	神奈川県水産総合研究所の海草藻場造成試験水槽内に出現した環形動物多毛類	西 栄二郎 工藤 孝浩
8	テキストマイニングによる遊漁者意識の探索	小川 砂郎
9	Sea Farming of Red Sea Bream <i>Pagurus major</i> (Temnick et Schlegel) in waters off Kanagawa Prefecture ,Japan with Special Reference to Stock Enhancement effect.	今井 利為
10	日齢を指標とした相模湾におけるマイワシ仔魚の成長（2004 年）	船木 修
11	AHP によるヒラメ水揚げ時の仲買人と漁業者の評価	小川 砂郎 山本 章太郎
12	伊豆諸島周辺海域におけるキンメダイの性比	秋元 清治
13	神奈川県産農水産物に関する消費者の評価	小川 砂郎 北畠 晶子
14	時系列分析による活ヒラメ単価の推移とその予測	小川 砂郎
15	黒潮流路の変化がキンメダイの釣獲効率に及ぼす影響	秋元 清治

2 事業報告等の発行

報告書名	発行所	発行月
相模川水系魚類生息状況調査報告書	内水面試験場	平成 17 年 2 月

3 定期発行物

資料名	発行実績	
まぐろ漁況速報	月3回	(36回)
漁況予報「いわし」	奇数月	
東京湾溶存酸素情報	21回	(5月から10月)
ブイ情報	土・日・祝祭日を除く毎日	
一都三県漁海況速報	土・日・祝祭日を除く毎日	
東京湾口海況図	毎日	
相模湾定置漁海況月報	月1回	
神奈川県近海海況予報	年3回	(7,12,3月)
相模湾定置網漁海況の見通し	年2回	
研究報告	年1回	第10号 H17.3
業務概要	年1回	平成15年度版 H16.6
水産総合研究所論文集	臨時	
水総研情報	年2回	

4 情報提供

項 目	内 容	ア ド レ ス
テレホンサービス	各地の気象・海象の実況	Tel.046-881-6041
かながわハローファクス	気象実況 台風情報、天気図 一都三県漁海況速報	Fax.045-212-0186 Box No.41090 Box No.41091 Box No.41092
インターネット	業務内容、海と魚に関する情報	http://www.agri.pref.kanagawa.jp/suisoken/

5 施設見学者

見学者は、水産総合研究所 6,937 人、相模湾試験場 1,816 人、内水面試験場 1,544 人であった。

組 織	見学者	小学生	中学生以上	一 般	計
水産総合研究所	団 体 数	72	31		103
	人 数	5,705	1,232 (外国人 64)		6,937
相模湾試験場	団 体 数	7	5	21	33
	人 数	351	37	1,428	1,816
内水面試験場	団 体 数	9	3	8	20
	人 数	643	114	787	1,544

6 発表及び講演

発表・講演は次のとおり対研究・行政担当者 84 件、対水産関係従事者 36 件、対一般県民 84 件で、詳細を別表に示した。

平成 16 年度業務概要 - 発表及び講演一覧

氏 名	テ ー マ	サブタイトル (具体的な内容)	対象	場 所	年 月
工藤孝浩	横浜市野島海岸の環境と生物	横浜市唯一の自然海岸である野島海岸における漂着ゴミの現状と、環境保全に尽力する市民・研究者の活動について説明した	「アースデイ」海浜清掃参加者	横浜市金沢区 野島海岸	H 16.04
工藤孝浩	海からみた金沢 - 地域自然と市民文化の将来 -	横浜市南部の海の環境概論と漁業の実態，市民による環境保全活動について講義した	横浜市立大学総合講義(1-4年共通講座)	横浜市金沢区 横浜市立大学	H 16.04
工藤孝浩	野島海岸の生態学	野島海岸と平潟湾の環境概論と漁業の実態，市民による環境保全活動について講義した	関東学院大学経済学部「人間と環境」環境フィールドスタディー	横浜市金沢区 関東学院大学	H 16.04
勝呂尚之	水生生物の調査方法	水生生物の調査方法と四十八瀬川に生息する生物の解説	四十八瀬川村・現地視察会	四十八瀬川	H 16.04
勝呂尚之	絶滅危惧種の保護と復元	絶滅危惧種の飼育状況・水辺ビオトープによる復元研究と河川環境と淡水魚	日本セカンドライフ協会	内水面試験場	H 16.04
石戸谷博範	定置網の側張りに作用した張力(2175日の流体抵抗の力積)	モデル網の側張りに作用した2175日の流体抵抗の力積	日本水産学会	鹿児島大学	H 16.04
大河内雅子*・渡邊芳明・原日出夫・相川英明・越尾波奈子・福田穎穂・岡本信明・坂本崇	アユマイクロサテライト連鎖地図の作成	AFLP解析により、アユの性成熟の時期に関するマイクロサテライト連鎖地図の作成を行った。	日本水産学会	鹿児島県	H 16.04
滝口直之	アワビ築磯漁場の効果について	アワビ築磯漁場の効果調査結果について	横須賀市 横三農政事務所	横三農政事務所	H 16.04
滝口直之	リモートセンシング技術を活用したアワビ築磯漁場の評価と課題	リモートセンシング技術を活用したアワビ築磯漁場の評価と課題	水産庁漁港漁場整備部	水産庁	H 16.04
滝口直之 堀井豊充	リモートセンシング技術を活用したアワビ築磯漁場の評価	リモートセンシング技術を活用したアワビ築磯漁場の評価	日本水産学会	鹿児島大学	H 16.04
日比香子*・原日出夫・林哲仁・任恵峰・遠藤英明	フローサイトメトリーを用いたアユ冷水病菌の測定	アユ冷水病菌を蛍光抗体で標識後、フローサイトメーターで計数することにより、マイクロカプセルに内包された菌体数を迅速に計数することが可能となった。	日本水産学会	鹿児島県	H 16.04
清水詢道	東京湾口でのマアナゴ葉形仔魚調査	しらす船曳網による葉形仔魚調査結果	アナゴ漁業者協議会	横浜市漁協柴支所	H 16.05
井塚 隆	人工水路を利用したワカサギの簡易採卵方法	採卵技術の概要と研究の苦労話など	一般	ラジオ FM YOKO HAMA	H 16.05
一色竜也	Summary of Process and Facilities for the flatfish seedling Production	ヒラメ種苗生産と放流技術の概要説明	JICA	水総研	H 16.05
工藤孝浩	横浜市中学校理科教員研修「横浜の海の環境」	横浜の海の環境変化の歴史と現状、赤潮・青潮発生メカニズム、生物相の構成、漁業の現状と問題点、市民と研究者の協働による調査・保全活動、演者が横浜の海で行ってきた環境教育の実践について講演した	横浜市立中学校の理科教員、横浜市教育委員会	横浜市中区 横浜市教育センター	H 16.05

工藤孝浩	海の公園と野島海岸の潮干狩り調査	海の公園等の潮干狩りが年々盛んになっているが、アサリ資源は天然の再生産のみに依存しており、潮干狩り調査によって採捕実態を把握することが資源管理の第一歩であることを説明した	横浜市立大学生、関東学院大学生、金沢八景クラブ(金沢区内6小学校高学年)	横浜市金沢区 海の公園・野島海岸	H 16.05
工藤孝浩	東京湾におけるアマモ場保全の取り組み	2000年に市民主導で実施された横浜港内のアマモ場造成から、現在水産庁からの委託を受けて神奈川県が取り組んでいるアマモ場造成事業に至った流れについて発表した	アマモ類自然再生ガイドライン調査検討委員会委員、アマモ類の遺伝的多様性の解析調査検討委員会委員	東京都台東区台東 マリノフォーラム21	H 16.05
今井利為	トラフグの生態について	トラフグ種苗を放流するにあたりトラフグの生態を概略を述べた	長井町・大楠漁業者	長井町漁協	H 16.05
勝呂尚之・蓑宮敦・山本裕康	内水面試験場の施設案内および研究業務の紹介	内水面試験場の施設と業務内容および絶滅危惧種の保護・復元対策	相模原総合高校1年生	内水面試験場	H 16.05
小川砂郎	漁協経営における遊漁船業の役割 - 神奈川県事例 -	漁協が遊漁船業者から徴収している賦課金等の事例の把握及び漁協経営における遊漁船業の貢献度合の評価	漁業経済学会	中央水産研究所	H 16.05
滝口直之	アワビ・サザエの栽培漁業	神奈川県におけるアワビ・サザエの栽培漁業について	JICA	水総研	H 16.05
滝口直之	アワビ漁場造成と禁漁	長井沖アワビ漁場の築磯による効果と禁漁区の設定による効果について	長井町漁協	長井町漁協	H 16.05
滝口直之	サザエ漁況予想	平成16年漁期のサザエ漁況予想について	長井町漁協	長井町漁協	H 16.05
工藤孝浩	横浜市野島海岸の環境と生物	横浜市唯一の自然海岸である野島海岸における環境と生物、潮干狩りとアマモの関係、環境保全に尽力する市民・研究者の活動について説明し、実際に観察された生物の解説を行った	横浜市ボランティア協会野島青少年研修センターの公募リーダー	横浜市金沢区 野島海岸	H 16.06
工藤孝浩	生活の水と東京湾	東京湾の環境変遷と漁業の変化、現在の生物の暮らしぶり、市民による環境再生活動等について講演した	大田区消費者講座参加者	東京都大田区大田区 立生活センター	H 16.06
作中宏・勝呂尚之・原日出夫・中川研・相川英明・蓑宮敦・井塚隆・山本裕康	内水面試験場の施設と研究内容	内水面試験場の施設と研究内容の紹介および種苗生産・投網等の体験	日本大学生物資源学部海洋資源科学科・体験実習	内水面試験場	H 16.06
勝呂尚之	ホトケドジョウの現状および調査方法の概要	ホトケドジョウの生態・増殖・保護・復元・県内の現状ならびに調査方法	かわさき自然調査団	川崎市青少年科学館	H 16.06
勝呂尚之	市内施設(史跡)めぐり	内水面試験場の紹介とミヤコタナゴの保護増殖	相模原市教育委員会主催・市内史跡めぐり	内水面試験場	H 16.06
勝呂尚之	内水面試験場の施設と研究およびメダカの保護	試験場紹介、絶滅に瀕した淡水魚の保護増殖およびメダカの保護活動	大島小学校4年生	内水面試験場	H 16.06
勝呂尚之	蓮池の水生生物	蓮池に生息する水生生物の種類とその形態・生態	藤沢市主催「藤沢メダカの学校」	藤沢市蓮池	H 16.06
勝呂尚之・原日出男・相川英明・井塚隆	内水面試験場の業務と絶滅危惧種の保護研究	試験場の研究業務と絶滅危惧種のピオトープおよび小田原メダカピオトープ、鳩川の多自然型護岸などの紹介	JICA・淡水魚養殖コース	内水面試験場他	H 16.06
小川砂郎	神奈川の遊漁の現状	神奈川県における遊漁船業の実態や、遊漁者アンケート調査結果の紹介	水産庁沿岸沖合課	水産庁	H 16.06
石黒雄一	小型底びき網模型実験	小型底びき網(タチウオ網)の基本的網成りについて	横浜市漁協本牧支所	相模湾試験場	H 16.06

樋田史郎	気象庁発表の黒潮大蛇行について	黒潮大蛇行に関する気象庁と水産の予測の説明	三崎小釣漁業研究会	水産総合研究所 BC 会議室	H 16.06
蓑宮敦	相模川の魚	相模川に生息する魚類の生態等についてスライド写真を用いて説明	小学 4 年生	海老名市立今泉小学校	H 16.06
岡部 久	サバ類の漁況経過	平成 16 年 1 ~ 6 月のたもすくい、沿岸サバ釣り、定置の漁況経過	太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁況予報会議	中央水研	H 16.07
船木 修	いわし類の漁況経過と予測	平成 16 年 4 月 ~ 6 月の経過と平成 16 年 7 月 ~ 12 月の予測	太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁況予報会議	中央水産研究所	H 16.07
一色竜也	神奈川県におけるヒラメ・ホシガレイ栽培漁業	ヒラメ・ホシガレイの種苗放流効果・モニタリング方法の解説	稚内市漁業者	水総研	H 16.07
原日出夫	コイヘルペスウイルス病について	コイヘルペスウイルス病に関する説明	内水面漁場管理委員会	自治会館	H 16.07
原日出夫	水質事故時における死亡魚の原因特定等について	水質事故時の死亡魚や生残魚の様子から考えられる事故発生状況の説明、サンプリング方法及び検査内容等について	水質事故に係る関係機関連絡会議	開港記念会館	H 16.07
工藤孝浩	横浜市漁協が実施した藻場造成の評価	平成 13 ~ 15 年度に金沢区ベイサイドマリーナにおいて横浜市漁協漁業研究会が実施したワカメ・コンブ浮き藻場の造成の水質浄化面と生物生産面における評価を行った	横浜港環境整備運営協議会藻場造成研究会会員	横浜市中区 横浜市埠頭公社	H 16.07
工藤孝浩	横浜市野島海岸の干潟と韓国と日本の干潟を巡る諸問題について	外務省の「日韓文化交流事業」の一環として来日した韓国のガールスカウト一行に対し、東京湾の干潟の現状を現地において説明し、韓国の干潟の大規模開発と日本における干潟や藻場の再生に対する取り組みを説明した	日韓ガールスカウト交流事業参加者	横浜市金沢区 野島海岸、野島青少年研修センター	H 16.07
工藤孝浩	市民団体との協働によるアマモ場造成手法開発	水産庁の水産基盤整備調査（直轄事業）として平成 16 年度に県が市民団体と協働して行うアマモ場造成事業の計画について発表した	水産基盤整備調査事業各県担当者、検討委員	東京都中央区築地（社）水産土木建設技術センター	H 16.07
工藤孝浩	神奈川県におけるアマモ場再生の取り組みとアマモ種子の選別作業	本県のアマモ場再生事業の推進を支援するために「金沢八景-東京湾アマモ場再生会議」が主催したアマモ種子の選別会において、アマモ場再生に対する県の取り組みと当日の作業の意義と流れを説明した	「アマモ種子選別会と城ヶ島の海体験」参加者	水産総合研究所	H 16.07
工藤孝浩	東京湾におけるアマモ場再生の取り組み	横須賀市走水における天然アマモ場の生物多様性を説明し、横浜市金沢湾の造成アマモ場におけるモニタリング調査について紹介した	NHK 教育テレビ「サイエンス ZERO」	横須賀市走水 横浜市金沢湾	H 16.07
山本貴一	魚価向上	相模湾の漁海況について	小田原市学校給食関係者	小田原市中央公民館	H 16.07
勝呂尚之	メダカの現状と飼育方法	県内のメダカの現状と飼育と繁殖上の注意点	小田原市「メダカお父さんお母さん制度」ミニセミナー	小田原市役所	H 16.07
勝呂尚之	引地川における生息魚類と最近の動き	引地川に生息する水生生物の現状とその生態、魚道の設置による復元技術ならびにコイのヘルペス・ウイルス等について	柳と遊ぼう引地川実行委員会主催・引地川学習会	かながわ女性センター	H 16.07
勝呂尚之	横浜メダカの保護	県内の淡水魚の現状と横浜メダカの保護およびビオトープによる復元	小学校 5 年生	剣山小学校	H 16.07

勝呂尚之	水生生物学習会	境川で実際に魚類等を採集し、魚類の採集方法や生態等について説明	ニュー相模自治会	境川・新中里橋下	H16.07
勝呂尚之	舞岡川の魚たち	舞岡川に生息する水生生物の分類・生態を解説	まいおか水と緑の会主催 「夏の舞岡川に入ろう」	横浜市戸塚区舞岡町	H16.07
勝呂尚之・山本裕康	境川の水生生物	境川で実際に魚類等を採集し展示することにより、魚類の採集方法や生態等について説明	相模原土木事務所みんなの町づくり教室	境川・寿橋	H16.07
小川砂郎	資源管理型遊漁経営促進事業について	神奈川県における遊漁船業の実態や、遊漁者アンケート調査結果の紹介	課題評価外部委員	水産総合研究所	H16.07
相川英明	平成15年度のアユ種苗生産について	平成15年度のアユ採卵結果と種苗生産について	アユ種苗生産担当者会議	群馬県	H16.07
樋田史郎	黒潮および相模湾の海況の経過と予測について	平成16年4月～7月の経過と平成16年7月～12月の予測	太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議	中央水産研究所	H16.07
樋田史郎	調査経過の報告	江の島丸のADCPの誤差補正について、城ヶ島沖ブイの流向流速の長期観測の解析について	中央ブロック海洋構造変動パターン解析技術開発試験事業、海域検討会	中央水産研究所	H16.07
木下淳司	平成16年下半期マアジ漁況予測	平成16年下半期のマアジ漁況予測について	水産庁・中央水産研究所各県担当者	中央水産研究所	H16.07
秋元清治	黒潮流路とキンメダイ魚の関係について	黒潮流路とキンメダイ漁況の関係から現状の漁況を考える	県内漁業者	県民センター 横浜市	H16.08
秋元清治	関東近海および室戸海域におけるキンメダイ若魚の耳石輪紋分析	耳石日周輪観察による両海域試料群の成長比較	魚類学会員	琉球大学	H16.09
岡部 久	関東近海のマサバについて	総集編作成の進捗と今後	一都三県サバ漁海況検討会	東京都水試	H16.08
工藤孝浩	金沢区近隣の海辺における動植物の観察	横浜市海の公園における動植物相の概要と、生物観察・採集の方法、実際に採集された生物の生態・分類に関する解説を行った	横浜市金沢区小学校理科研究会会員	横浜市金沢区海の公園、横浜市立文庫小学校	H16.08
工藤孝浩	三浦半島の磯の生物	三浦半島の磯の生物相の概要と、生物観察・採集の方法、実際に採集された生物の生態・分類に関する解説を行った	横浜市立小学校教員とその家族	横須賀市荒崎海岸、三浦青少年センター	H16.08
工藤孝浩	三浦半島の磯の生物	三浦半島の磯でみられる形態や生態が面白い生物と危険な生物、生物観察・採集の方法、実際に採集された生物の生態・分類に関する解説を行った	ガールスカウト神奈川県連盟「ブラウニーキャンプ」参加者	三浦市初声町長浜海岸、三浦青少年センター	H16.08
工藤孝浩	神奈川県における自然と共生する海辺づくり	全漁連が主催する若手女性部員の担い手育成事業の現地査察団に対し、横浜市野島海岸周辺におけるアマモ場やヨシ原の再生活動などを説明した	全漁連「JF全国女性連フレッシュ・ミズ・プログラム」参加者	横浜市金沢区横浜市漁協、野島海岸周辺	H16.08

工藤孝浩	多摩川河口の魚類	1999～2000年に多摩川河口で実施した魚類相調査の結果について、ほぼ同時期に千葉県江戸川放水路と横浜市平潟湾で調査された魚類相と比較し、東京湾各地に点在する汽水域における魚類相の連続性と固有性について講演した	第5回汽水域セミナー「東京湾の汽水域環境復元の世紀」～多摩川河口は今～参加者	川崎市川崎区 川崎市産業振興会館	H16.08
工藤孝浩ほか所員	城ヶ島の海と生物、磯観察の留意点	県科学技術振興課「かながわサイエンスサマー」の一環として当所が主催した磯の生物観察会において、城ヶ島の生物相と磯観察における留意点と危険な生物について説明した	県内小学生と父兄	水産総合研究所	H16.08
小川砂郎	P S Mを用いた釣船の受容価格帯	遊漁船を利用する際の需要価格帯調査結果	北日本漁業経済学会	網走市オホーツク文化交流センター	H16.08
樋田史郎	黒潮予測について	黒潮大蛇行予測と伊豆諸島海域の海況	小釣漁業連絡協議会	かながわ県民活動サポートセンター	H16.08
樋田史郎	携帯電話対応の海況図について	海況図の携帯電話対応版の試行と使用方法	小釣漁業連絡協議会	かながわ県民活動サポートセンター	H16.08
木下淳司	平成16年下半期漁海況予測説明会	相模湾定置網漁況の平成16年下半期の見通し	県内漁業関係者	相模湾試験場・水産総合研究所	H16.08
岡部 久	2004年漁期のサバたもすくい漁況	2004年漁期のサバたもすくい漁況の概要とマサバ2002年級群の産卵回遊	中央ブロック資源・海洋研究会	高知市	H16.09
岡部 久	外海と海洋生物	外海、そこにすむ海洋生物、それを利用する漁業の解説	よこすか市民会議会員	水総研	H16.09
岡部 久	外海と海洋生物	水総研の試験研究の概要	よこすか市民会議会員	水総研	H16.09
岡部 久	マサバの成熟	伊豆諸島海域における平成13年漁期のマサバの成熟状況	一都三県サバ漁海況検討会	大平荘	H16.09
岡部 久・森岡伸介(マダガスカル農畜水産省)	マサバ、ゴマサバ稚魚の耳石輪紋の日周性(予報)	ALC2重マーク間の輪紋計数による日周性の確認	日本魚類学会	琉球大学	H16.09
一色竜也	マダイの栽培漁業	マダイの種苗放流の効果と人工魚の見分け方の解説	横浜市内小学生	横浜市ベイサイドマリーナ	H16.09
工藤孝浩	横浜と釜石の海の生物比較	横浜港で釜石産種苗のワカメを育成した子供たちが釜石の磯で発見した生物について、横浜のものとの違いや共通点を説明した	夢・ワカメワークショップ参加者	岩手県釜石市	H16.09
工藤孝浩	渚は呼吸する	釣り名人の服部善郎氏、横浜市大の村橋克彦教授、市立西柴小学校の坂田邦江教諭とともに、金沢湾におけるアマモ場再生の取り組みと東京湾の環境再生のシンボルとなるアオギスの生態等についてパネルディスカッションを行った	「アサリサミット2004 in 海の公園」参加者	横浜市金沢区海の公園	H16.09
勝呂尚之	横浜自然観察の森の水生生物	横浜自然観察の森「水鳥の池」の生物採集調査およびウシガエルの駆除指導	自然観察センター「バケダマ退治」	横浜自然観察の森	H16.09
勝呂尚之	道保川の魚とその生態	道保川に生息する水生生物とその問題点、および保護対策	新磯小学校5年生	道保川	H16.09
小川砂郎	資源管理型遊漁経営促進事業について	神奈川県における遊漁船業の実態や、遊漁者アンケート調査結果の紹介	海業研究会	東京海洋大学	H16.09
小川砂郎	遊漁と地域の活性化について	遊漁船業が地域に及ぼす経済波及効果など	水産業改良普及事業関東・東海ブロック集団研修会	日本大通7ビル	H16.09

小川砂郎	遊漁船業に関する調査研究報告会	遊漁船業の現状や、これから取り組むべきマーケティング調査による結果の紹介	釣り団体、釣り関係マスメディア、水産庁	日本フィッシング会館 会議室	H 16.09
石戸谷博範	定置網における漁具防災と活性化	定置網漁業における漁具防災による経営安定と活性化	水産海洋学会	小田原市	H 16.09
中居裕*・景山哲史・宇賀神光男・吉澤和具・名倉盾・原日出夫・降幡充・畑井喜司雄・梶原敬太	アユ卵に対するプロノボールの安全性試験および水カビ病発生防除効果	アユ卵に対するプロノボールの安全濃度と作用時間および水カビ病発生防除効果について検討した結果、安全かつ実用的な防除効果が認められた。	日本魚病学会	北海道	H 16.09
樋田史郎	黒潮流路と海況の現状について	平成 16 年度神奈川県青年漁業士養成講座 黒潮予測と海洋構造の解説	青年漁業士認定申請者	相模湾試験場	H 16.09
片山知史・一色竜也・渡部諭史・福田雅明・工藤孝浩・山田敦	相模湾砂浜浅海域におけるヒラメとアマミ類の種間関係	ヒラメ0歳魚に捕食されているアマミ類の種組成と選択的に捕食されているアマミ類の季節的消長の把握を行った。	中央ブロック資源・海洋研究会	中央水研高知高知庁舎	H 16.09
養宮敦	相模川の魚	相模川に生息する魚類の生態等についてスライド写真を用いて説明	茅ヶ崎市立西浜中学 1 年生	茅ヶ崎市立西浜中学校	H 16.09
養宮敦	相模川の魚	相模川に生息する魚類の生態等についてスライド写真を用いて説明	小学 4 年生	海老名市立社家小学校	H 16.09
山田佳昭	相模湾沿岸域の環境の特徴	第 2 8 回相模湾の環境保全と水産振興シンポジウム	漁業関係者行政関係者研究者	小田原市中央公民館	H 16.10
一色竜也	ヒラメ資源に関して	ヒラメ漁獲状況・放流効果・資源管理・漁況予測等を解説	長井町漁協刺網部会	長井町漁協	H 16.10
原日出夫	魚病対策の現状と課題	アユ冷水病およびコイヘルペスウイルス病に関して、原因、発生状況、対策及び今後の課題について講演	関東地方環境対策推進本部 水環境部会研修	内水面試験場	H 16.10
原日出夫	酒匂川アユへい死の概要について	酒匂川におけるアユの大量へい死に関する原因究明調査の結果報告	酒匂川河口漁業対策協議会 臨時総会	小田原市水産海浜課 会議室	H 16.10
工藤孝浩	アマモ類分布調査の実施状況	16 年度新規事業「生物多様性に配慮したアマモ場造成技術開発調査」について、本県が担当したアマモ類分布調査の今年度上半期の実施状況について報告した	水産庁、水研センター、各県担当者	東京都千代田区 水産庁	H 16.10
工藤孝浩	神奈川県におけるアマモ場再生の取り組みとアマモの種まき	本県のアマモ場再生事業の推進を支援するために「金沢八景-東京湾アマモ場再生会議」が招集したアマモ種子の播種作業参加者に対して、アマモ場再生に対する県の取り組みと当日の作業の意義と流れを説明した	「アマモの種まき体験」参加者	横浜市金沢区 金沢漁港	H 16.10
工藤孝浩	東京湾の環境再生への取り組みと将来への想い	水産庁が立ち上げた豊かな東京湾再生検討委員会親水機能分科会の座長指名を受け、これまでの東京湾の環境再生活動への取り組みを披露するとともに、東京湾の将来への想いとそれを実現するための分科会の方向づけを表明した	水産庁、豊かな東京湾再生 検討委員会委員	東京都港区 芝弥生会館	H 16.10
今井利為	Sea Farming of Red SeaBream	マダイの放流効果と受益者負担について	日中韓水産研究者	海外技術協力事業団	H 16.10
勝呂尚之	丹沢の淡水魚	丹沢大山調査・水生生物チーム（魚類班）の中間報告	一般県民（第 3 回丹沢大山 保全再生セミナー）	かながわ県民センター ホール	H 16.10
石戸谷博範	定置網の新技术と将来展望	相模湾における定置網防災技術等の実践と経営向上	水産海洋学会	小田原市	H 16.10

相川英明	継代数の異なる人工産アユの種苗差について	水槽でのなわばり試験及びアユ放流調査の結果について説明	漁場監視員研修	広域水道企業団 水取水管理事務所	H 16.10
樋田史郎	一都三県漁海況速報のアンケートの集計について	海域による漁業者の要望を抽出する方法の議論	一都三県漁海況速報担当者会議	静岡水試	H 16.10
木下淳司	相模湾シンポジウム	相模湾の定置網漁場としての特性等について。	日本水産海洋学会 漁業関係者・一般	小田原市中央公民館	H 16.10
清水詢道	2004年の葉形仔魚の来遊とメソの分布	葉形仔魚の来遊状況とメソの分布に基づいた漁況予測	一都二県あなご漁業者交流会	メルパルク横浜	H 16.11
井塚 隆	人工水路を利用したワカサギ簡易採卵	人工水路を用いて養殖ワカサギから受精卵を得るシステムを開発した	ワカサギに学ぶ会 他県水産試験場および漁業者	秋田県	H 16.11
原日出夫	アユ冷水病ワクチン試験	経口ワクチン試験の中間報告	ワクチン研究会	三重県	H 16.11
原日出夫	神奈川県魚病発生状況等	神奈川県魚病発生状況及び対策について報告	関東甲信内水面地域合同検討会	埼玉県	H 16.11
原日出夫	水質事故時における死亡魚の原因特定等について	水質事故時の死亡魚や生残魚の様子から考えられる状況の説明、サンプリング方法及び検査内容等について	水質事故に係る関係機関研修会	内水面試験場	H 16.11
原日出夫	水質事故時における死亡魚の原因特定等について	水質事故時の死亡魚や生残魚の様子から考えられる状況の説明、サンプリング方法及び検査内容等について	境川・引地川流域対策協議会	内水面試験場	H 16.11
工藤孝浩	横浜市沿岸における生物の生態、環境再生の取り組みと砂浜再生の可能性	横浜の砂浜再生を指向するNPO法人が主催するシンポジウムにおいて、横浜沿岸の生物の生態と環境再生の取り組みについて講演し、作家の山崎洋子氏らと今後の砂浜再生の可能性についてパネルディスカッションを行った	「ハマには浜を！」シンポジウム参加者	横浜市中区 ワシントンホテル	H 16.11
工藤孝浩	市民が主体となったアマモ場再生の取り組み	先進地視察として来県した徳島県水産課職員とJF小松島漁協組合員に対し、市民が主体となって実施されてきた本県のアマモ場再生事例を紹介し、現地においてはアマモ種子の播種作業を実地指導した	徳島県水産課水産業改良普及員、JF小松島漁協青年部	水産総合研究所、 横浜市金沢区 ベイサイドマリーナ	H 16.11
工藤孝浩	市民との協働によるアマモ場造成	2000年に市民の主導によって始まり、現在水産庁の直轄事業として展開されている本県のアマモ場造成事業について、経過と成果について講演した	日本水産工学会秋季シンポジウム「藻場造成・実践と課題」参加者	小田原市早川 小田原水産会館	H 16.11
山本貴一	魚価向上	相模湾の漁海況について	魚食普及交流会参加者	相模湾試験場	H 16.11
小川砂郎	これからの遊漁船業経営について	遊漁船業の現状や、これから取り組むべきマーケティング調査による結果の紹介	遊漁船業者及び釣り具メーカー	(株)マルキュー	H 16.11
小川砂郎	釣り人による遊漁船利用時の重要度・満足度	遊漁者が遊漁船に対し、重要及び満足している項目の抽出及び因子分析による要因抽出等	地域漁業学会	長崎大学文教キャンパス	H 16.11
長谷川 理	太平洋ブロック地域魚類防疫合同検討会	神奈川県における海産魚類の疾病発生状況について	各県魚病診断担当者	東京都水試	H 16.11
蓑宮敦	相模川の魚と水質	相模川に生息する魚類の種類とその生態、神奈川県希少魚、アユの生態及び近年の相模川の水質について説明	相模原市立上溝中学1年生	内水面試験場	H 16.11
木下淳司	平成16年日本水産工学会秋季シンポジウム	カジメ藻場造成と藻場の水質浄化効果等	日本水産工学会員 水産基盤整備関係者など	小田原水産会館	H 16.11
岡部 久	サバ類の漁況経過	平成16年7～11月のたもすくい、沿岸サバ釣り、定置の漁況経過	太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議	中央水研	H 16.12
清水詢道	2004年の東京湾口への葉形仔魚の来遊	葉形仔魚の来遊状況と暖水波及に関する検討	第8回あなご漁業資源研究会	アイリス愛知	H 16.12
清水詢道	漁業管理と資源管理	資源管理型漁業の理論と事例の紹介	海外漁業協力財団研修生	水産総合研究所	H 16.12

岡部 久・池上直也（千葉水研セ）・平井一行（静岡水試）	関東近海のマサバ産卵期の経年変化と成熟個体の特徴	特異的な漁場形成に関する一都三県共同発表	水産海洋学会	東京海洋大学	H 16.12
工藤孝浩	集まろう！語り合おう！新たな東京湾の市民活動拠点	横浜港に面した国土交通省の事務所内への海水導入池と市民利用施設「ダイバーシティプラザ」の開設にあたり、横浜市沿岸で活動する市民団体や学校関係者が一堂に会した「キックオフフォーラム」のコーディネーターを務めた	横浜市内沿岸で活動する市民団体、学校関係者、市教育委員会、国土交通省職員	横浜市神奈川区国交省関東地方整備局横浜港湾空港技術事務所	H 16.12
工藤孝浩	東京湾における漁業の多面的機能	漁業における多面的機能のコンセプト解明と施策展開の方向付けに示唆を与えるための多分野の研究者から成る研究会において、東京湾における事例について話題提供した	「日本漁業における多面的機能に関する問題の整理と展望」共同研究者	横浜市金沢区（独）水産総合研究センター中央水産研究所	H 16.12
工藤孝浩・田島良博	神奈川県におけるアサリ研究等について	1996～2000年に実施された金沢湾の天然干潟と人工干潟の比較研究の中で明らかになったアサリの再生産の状況等について説明した	北海道釧路支庁釧路地区水産技術普及指導所職員	水産総合研究所	H 16.12
勝呂尚之	県内の淡水魚の現状と保護復元	相模川に生息する淡水魚の分布・生態・現状および絶滅危惧種の保護・復元	弥栄小学校 4年生	内水面試験場	H 16.12
勝呂尚之	地域・関係機関と連携した環境教育の実践について	絶滅に瀕した淡水魚の保護・復元の実態と環境教育との連携	県総合教育センター・コーディネーター育成講座	県総合教育センター	H 16.12
勝呂尚之	望地農業用水路の水生生物	望地農業用水路の水生生物の生態・分布および希少種の保護・復元	田名小学校 4年生	望地農業用水路	H 16.12
石戸谷博範	定置網に大被害を与えた急潮の実態と防災対策	相模湾において定置網に大被害を与えた急潮の実態と漁具防災対策	水産海洋学会	東京海洋大学	H 16.12
中川 研・蓑宮敦	鶴見川について	鶴見川に生息する魚の生態や魚類の生理現象、鶴見川の現状について説明	鶴見小学校 1年生	内水面試験場	H 16.12
樋田史郎	黒潮および相模湾の海況の経過と予測について	平成 16 年 7 月～12 月の経過と平成 17 年 1 月～6 月の予測	太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議	中央水産研究所	H 16.12
樋田史郎	調査経過の報告	江の島丸による ADCP 観測結果	中央ブロック海洋構造変動パターン解析技術開発試験事業、海域検討会	中央水産研究所	H 16.12
木下淳司	平成 17 年上半年期マアジ漁況予測	平成 17 年上半年期のマアジ漁況予測について	水産庁・中央水産研究所各県担当者	中央水産研究所	H 16.12
山田佳昭	相模湾の水質と赤潮について	湘南学園高等学校（藤沢市）第 2 学年特別教育活動「環境問題に関する取り組みやその対策」水質汚染	湘南学園高等学校 2 年生	水産総合研究所研修室	H 16.06
原日出夫・相川英明・井塚隆	サイエンスサマー	試験場紹介、アユの生態等の説明及び雌雄選別・採卵体験	一般県民	内水面試験場	H 16.08
作中宏・勝呂尚之・中川研・蓑宮敦	企業庁サービス協会イベント「水・自然エネルギー普及啓発事業」	絶滅危惧種等の生態及び神奈川県における現状について説明後、水辺ピオトープで水生生物を採集し観察及びスケッチを行った。	小・中学生	内水面試験場	H 16.08
勝呂尚之	夏休み親子観察会	酒匂川水系農業用水路に生息する魚類の解説	シンポジウム・酒匂川水系の環境を考える会	小田原アリーナ前水路	H 16.08
勝呂尚之	酒匂川の水生生物	酒匂川に生息する魚類等の水生生物とその生態の解説	県下水道教室	酒匂川左岸処理場	H 16.08

勝呂尚之	絶滅危惧種の保護復元研究と内水面試験場の施設案内	県内の淡水魚類の現状と生態、絶滅危惧種の分布・生態の研究およびビオトープによる保護復元研究	近畿大学保全生態学研究室	内水面試験場	H16.08
勝呂尚之	川に住む生物の観察	県内の淡水魚類の現状と生態、絶滅危惧種の保護復元および学校ビオトープによるメダカ復元	小学校5年生	横浜市釜利谷東小学校	H16.08
勝呂尚之	相模川の生き物教室・相模川の水生生物の実態・観察	相模川に生息する魚類や絶滅危惧種等について説明および内水面試験場谷戸池での採集体験	寒川町一ノ宮小学校教員	内水面試験場	H16.08
勝呂尚之	内水面試験場の施設と研究およびメダカの保護	試験場紹介、絶滅に瀕した淡水魚の保護増殖およびメダカの保護活動	藤沢メダカの学校をつくる会主催「藤沢メダカの学校」	内水面試験場	H16.08
勝呂尚之・山本裕康	相模川の水生生物	相模川に生息する魚類等の水生生物とその生態の解説	寒川町下水道ふれあい教室	目久尻川・相模川右岸処理場	H16.08
勝呂尚之・山本裕康	相模川の水生生物	相模川に生息する魚類等の水生生物とその生態の解説	県下水道教室	相模川座架井橋・相模川右岸処理場	H16.08
勝呂尚之・中川研・蓑宮敦・山本裕康	サイエンス・サマー（水生生物保護体験および投網教室）	谷戸池での水生生物採集と説明および投網の投げ方体験教室	一般県民	内水面試験場	H16.08
勝呂尚之・蓑宮敦	相模川の水生生物	相模川に生息する魚類等の水生生物とその生態の解説	県下水道教室	鳩川三川公園・相模川右岸処理場	H16.08
岡部 久	サバ類の漁況経過	平成15年7～11月の漁況経過と標識放流調査の概要等	一都三県サバ漁海況検討会	千葉県館山市	H17.01
原日出夫	アユ冷水病マイクロカプセルワクチンの開発研究	腸溶解性マイクロカプセル内包アユ冷水病ワクチンの開発研究の経過について発表	全国水産試験場場長会	横浜市	H17.01
原日出夫	アユ冷水病ワクチンの開発に関する研究	簡易なワクチン投与方法である経口法の効果向上に関する研究結果について報告	魚病対策技術開発研究報告会	東京都中央区	H17.01
工藤孝浩	アマモ類分布調査の結果について	16年度「生物多様性に配慮したアマモ場造成技術開発調査」について、本県が担当したアマモ類分布調査の今年度の実施状況と来年度計画について報告した	水産庁、水研センター、各県担当者	東京都千代田区水産庁	H17.01
工藤孝浩	市民や漁業者が主体となった自然再生の取り組み	三番瀬の再生・保全指針の策定に資するためにNPO法人三番瀬環境市民センターが主催したシンポジウムにおいて、本県沿岸における藻場・ヨシ原造成などの事例について発表し、パネルディスカッションに加わった	三番瀬シンポジウム「海域の再生と街づくり、その未来」参加者	千葉県市川市行徳公民館	H17.01
山本貴一	魚価向上	相模湾の漁海況について	小田原市内小中学校保護者	小田原市梅の里センター	H17.01
樋田史郎	黒潮予測と漁況について	平成17年1月～6月の海況予測	三崎小釣漁業研究会	みうら漁協	H17.01
木下淳司	平成17年上半年期漁海況予測説明会	相模湾定置網漁況の平成17年上半年期の見通し。	県内漁業関係者	相模湾試験場	H17.01
秋元清治	キンメダイ漁況について	黒潮流路の変化がキンメダイの釣獲効率に及ぼす影響	県内漁業者	みうら漁業協同組合	H17.02
秋元清治	キンメダイ研究について	これまでの研究成果と今後の研究方針	県内漁業者、学識経験者、県担当者	ポートコミュニティ万国橋	H17.02
岡部 久	関東近海のマサバについて	総集編作成の進捗と今後	一都三県サバ漁海況検討会	東京都水試	H17.02
一色竜也	地元のさかなの色々	神奈川県内の漁業と漁獲物の紹介	かながわ 海・さかな塾	三崎魚市場 7F 会議室	H17.02
菊池康司	ヘルシーで旨い魚	魚肉の特性と味の科学	かながわ 海・さかな塾	三崎魚市場 7F 会議室	H17.02
亀井正法	さかな（魚介類）の生物学	魚介類分類の基本、みわけ方の紹介	かながわ 海・さかな塾	三崎魚市場 7F 会議室	H17.02

原日出夫	県内で発生したコイヘルペスウイルス病について	県内で発生したコイヘルペスウイルス病に関する検査状況、被害状況の説明	魚類防疫講習会	内水面試験場	H 17.02
原日出夫	県内の魚病診断状況	魚病診断状況及び症例の説明	魚類防疫講習会	内水面試験場	H 17.02
原日出夫	全国魚類防疫会議等の情報	コイヘルペスウイルス病に対する国の方針及び近県で問題となっている魚病の説明	魚類防疫講習会	内水面試験場	H 17.02
工藤孝浩	横浜港内のワカメ育成試験の水質浄化の効果	当所が後援する水質浄化を目的とした海藻育成ワークショップにおいて、育成・回収したワカメの量から窒素とリンの三次処理量を推計し、水質浄化の効果を評価した	「夢・ワカメワークショップ」参加者	横浜市中区 みなとみらい21臨 港パーク内	H 17.02
工藤孝浩・NPO 法人海辺つくり 研究会	アマモ場再生事業、特に官民共同の手法について	国交省のシーブルー事業による藻場再生が計画されている福岡市の職員に対し、金沢湾の造成現場を案内し、本県のアマモ場造成事業の実施状況と官民共同の手法について説明した	福岡市港湾局環境対策課職員	水産総合研究所、 横浜市金沢区 海の公園・野島海岸	H 17.02
山本貴一	魚価向上	相模湾の漁海況について	全国豊かな海づくり大会事務局	相模湾試験場	H 17.02
勝呂尚之	横浜メダカの保護復元	県内の淡水魚の現状と横浜メダカの分布・生態・保護増殖およびビオトープの維持管理	5年生	横浜市荏田西小学校	H 17.02
勝呂尚之	内水面試験場の業務と施設案内	試験場の業務内容の紹介、施設案内	関東ブロック内水面担当者会議	内水面試験場	H 17.02
勝呂尚之	野生水生生物多様性保全対策事業および生態系復元研究	平成16年度・野生水生生物多様性保全対策事業（ギバチ）と生態系復元研究の成果	野生水産生物多様性事業報告会	中央水産研究所・上田庁舎	H 17.02
滝口直之	資源増大技術開発地先型定着性種（暖水域）グループ報告会	資源増大技術開発事業（アワビ類資源再生産過程解明）の事業報告	担当県、水産庁	福岡県水産海洋技術センター	H 17.02
滝口直之	神奈川県におけるアワビ着底初期稚貝の出現動態	神奈川県におけるアワビ着底初期稚貝の出現動態について	中央水研、参加県	中央水研	H 17.02
滝口直之	有機スズ化合物がアワビ浮遊幼生・着底変態に及ぼす影響	有機スズ化合物がアワビ浮遊幼生・着底変態に及ぼす影響について	中央水研、参加県	中央水研	H 17.02
長谷川 理	水産ゲノム育種推進計画会議	ヒラメの白化関連遺伝子座のQTL解析に関する試験結果について	事業参加機関担当者	三重県伊勢市	H 17.02
樋田史郎	2005年1月中旬に見られた房総半島沖における渦の伝播について	黒潮前線に発生した顕著な渦に関する議論	関東東海ブロック水産海洋連絡会	和歌山県加太	H 17.02
樋田史郎	一都三県漁海況速報のアンケート結果について	海域による漁業者の要望の違いの抽出結果	関東東海ブロック水産海洋連絡会	和歌山県加太	H 17.02
樋田史郎	携帯電話対応の海況情報提供システムの開発について	携帯電話対応の技術開発の紹介	関東東海ブロック水産海洋連絡会	和歌山県加太	H 17.02
蓑宮 敦	相模川河口域及び砕波帯におけるアユの初期生態	相模川河口域及び砕波帯におけるアユの分布状況等について説明	アユ資源研究部会	東大海洋研	H 17.02
蓑宮 敦	相模川河口域及び砕波帯におけるアユの初期生態	相模川河口域及び砕波帯におけるアユの分布状況等について説明	神奈川県内広域水道企業団及び相模川漁業協同組合連合会	相模大堰	H 17.02
秋元清治	遊漁と資源管理に関する研究	神奈川県遊漁隆興地区における船釣り遊漁の資源利用実態について	水産庁、中央水産研究所、調査県担当者	水産庁	H 17.03
船木 修	いわし類の漁況経過と予測	平成17年1月～3月の経過と平成17年4月～6月の予測	太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議	オンライン会議	H 17.03
船木 修	春シラス漁の漁況予測	平成17年3月～6月のシラス漁の漁況予測	県内シラス漁業者	鎌倉漁協	H 17.03

一色竜也	ヒラメ資源について	ヒラメ資源管理と放流効果について説明	平成16年度多元的資源管理型漁業促進委員会	横浜市波止場会館	H17.03
一色竜也	ヒラメ資源に関して	ヒラメ漁獲状況・放流効果・資源管理・漁況予測等を解説	小田原市漁協刺網部会	水総研相模湾試験場	H17.03
一色竜也	遊漁釣獲尾数の推定	マダイ遊漁の調査事例	水産庁、中央水産研究所、各県担当者	水産庁	H17.03
工藤孝浩	横浜における流域圏自然再生	源流の森から海までが半日徒歩圏内に収まる野島・平潟湾流域圏における市民活動団体のネットワーク形成と自然再生生活道、より広域の流域圏連携のビジョンについて講演した	第2回横浜・海の森づくりフォーラム・流域圏自然再生リレーシンポジウム参加者	横浜市金沢区横浜市立大学	H17.03
工藤孝浩	魚の目から見た東京湾の自然再生	日本動物学会関東支部大会において、学会員のみならず広く市民に東京湾の生物を紹介し環境保全意識の向上に資するために、魚をはじめとする生物の暮らしびりや様々な環境再生の取り組みについて講演した	日本動物学会第57回関東支部大会一般公開講演会参加者	横浜市金沢区横浜市立大学	H17.03
工藤孝浩	金沢湾におけるアマモ場再生事業の現場について	環境省が後援する流域圏自然再生リレーシンポジウムの一環として実施されたフィールド見学会において、造成されたアマモ場を漁船上から箱眼鏡を用いて観察してもらい、市民と協働によるアマモ場再生事業について説明した	流域圏自然再生リレーシンポジウム・第2回横浜・海の森づくりフォーラム参加者	横浜市金沢区野島海岸	H17.03
工藤孝浩	市民参加型のアマモ場再生事業	博多湾の環境改善と環境啓発を目的とする市民参加によるアマモ移植を計画している福岡市の職員に対し、苗移植イベントを体験させ、本県のアマモ場造成事業の実施状況と官民共同の手法について説明した	福岡市保健環境研究所職員	水産総合研究所、横浜市金沢区金沢漁港・海の公園	H17.03
工藤孝浩	市民団体との協働によるアマモ場造成手法開発	水産庁の水産基盤整備調査（直轄事業）として平成16年度に県が市民団体と協働して行ったアマモ場造成事業の結果について発表した	水産基盤整備調査事業各県担当者、検討委員	東京都千代田区経済産業省	H17.03
工藤孝浩	神奈川県におけるアマモ場再生の取り組みとアマモの苗移植	本県のアマモ場再生事業の推進を支援するために「金沢八景-東京湾アマモ場再生会議」が招集したアマモの苗移植作業参加者に対して、アマモ場再生に対する県の取り組みと当日の作業の意義と流れを説明した	「アマモの苗移植会」参加者	横浜市金沢区金沢漁港	H17.03
今井利為・滝口直之・堀口敏宏(環境研)	城ヶ島におけるアワビ漁獲量減少の要因推定	アワビ漁獲量の減少要因として、漁業者数、年齢、種苗放流効果、COD、DIN、透明度、植生、有機スズ化合物との関係を検討した。	太平洋中ブロックアワビ研究者	中央水産研究所	H17.03
山田敦・一色竜也	資源増大技術開発事業検討会報告	ホシガレイ種苗生産と放流技術開発の報告	資源増大技術開発事業検討会	千葉県教育会館	H17.03
山本貴一	魚価向上	相模湾の漁海況について	魚価対策事業関係者	神奈川県中小企業センター	H17.03
山本貴一	蓄養水面	三浦半島におけるいわし類の蓄養	小田原漁港整備推進協議会	相模湾試験場	H17.03
勝呂尚之	桑原鬼柳農業用水路の水生生物	桑原鬼柳農業用水路の魚類等の水生生物とその生態の解説	たんばの恵みを感じる会・春の事業	桑原鬼柳農業用水路	H17.03
勝呂尚之	絶滅に瀕した淡水魚と保護研究	県内の淡水魚の現状と絶滅危惧種の分布・生態・保護増殖および試験場の施設案内	大島小学校4年生	内水面試験場	H17.03
勝呂尚之	戻って来い！酒匂川の魚たち	酒匂川に生息する魚類等の水生生物とその生態、酒匂川の問題点および保全・復元	一般県民（酒匂川の環境を考える会主催）	相洋中高等学校・インテリジェントセンター	H17.03

小川砂郎	ヒラメ単価の推移と魚体評価	ヒラメ単価の将来予測及び今後取り組むべきマーケティング戦略について	小田原市漁協刺し網部会	相模湾試験場	H 17.03
小川砂郎	神奈川県産水産物の知名度	神奈川の漁業や水産物の知名度及びイメージなど	市町村給食関係者	神奈川中小企業センター	H 17.03
小川砂郎	遊漁船業の漁家経営及び地域に及ぼす影響	マーケティング手法を用いた遊漁経営改善策について	水産庁、中央水産研究所、各県担当者	水産庁	H 17.03
石戸谷博範	相模湾における定置網漁具の開発	相模湾における急潮被害防止対策をねらった定置網漁具の開発	水産海洋学会	石川県七尾市	H 17.03
石黒雄一	江の島片瀬地先漁場造成効果調査	江の島片瀬地先漁場造成効果調査の結果について	江の島片瀬漁協及び藤沢市なぎさ事務所	藤沢市なぎさ事務所	H 17.03
樋田史郎	黒潮および相模湾の海況の経過と予測について	平成 17 年 1 月～3 月の経過と平成 17 年 4 月～6 月の予測	太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議	オンライン会議	H 17.03
木下淳司	漁業者研修会	簡易イセエビ礁調査結果 / アイゴによるカジメの食害	小田原市漁業協同組合刺し網部会	相模湾試験場	H 17.03
木下淳司	藻場・干潟に関する談話会	人工リーフのカジメ藻場で発生したアイゴによる食害	独)水研・地方水試・民間企業の研究員など	瀬戸内海区水産研究所	H 17.03

7 外部投稿

コイヘルペスウイルス病について

原 日出夫

2003年に国内で初めて発生が確認されたコイヘルペスウイルス(KHV)病について、原因となるウイルスの性質、海外での発生状況、国内での発生状況及び診断方法について解説した。

漁協だより 平成16年4月

二段箱式落網の流失・破網に対する防災

石戸谷 博範

二段箱式落網の流失・破網に対する事故の発生機構を回流水槽実験より解明し、防災対策として適正張力設計、台浮子浮力の増強による全抵抗の減少、緊急時の箱網撤去等について報告した。

ていち106 平成16年7月

定置網の性能向上を目指した流況計測

石戸谷 博範

定置網の性能は流れに対する網の挙動により左右される。漁獲性能の向上を目指した流況計測の方法について、係留施設の設計、データ処理等について紹介した。

ていち106 平成16年7月

多摩川河口の魚類

工藤 孝浩

筆者が1999～2000年に多摩川河口で実施した魚類相調査の結果について、ほぼ同時期に千葉縣市川市の江戸川放水路や横浜市平潟湾で筆者が実施した調査結果と比較し東京湾内各地に点在する汽水域の魚類相の連続性と固有性について考察した。また、1970年代に中村守純が行った多摩川上中流域の魚類相調査の結果と比較することにより、感潮域上部にある調布堰が魚類の移動を著しく阻害している可能性を指摘し、エドハゼ、トビハゼなどの希少種の生息状況についても記述した。

第5回汽水域セミナー「東京湾の汽水域環境復元の世紀」～多摩川河口は今～ 平成16年8月

相模湾における海洋深層水の含有成分

山田 佳昭，小倉 光夫（神奈川環科セ）

相模湾深層水の今後の利用にあたって、基礎的資料として相模湾の深層水の性状を把握する必要があることから、水総研と共同して夏季及び冬季に小田原市沖と横須賀市長井沖の水深300mから採水し、主成分元素や微量元素、環境汚染物質等について測定を行った。

太平洋側に位置する海洋深層水利用の先進地（高知県室戸市沖，静岡県焼津市沖）での分析結果と大差なく，相模湾においても海洋深層水の持つ特性は保持されていると考えられた。

神奈川県環境科学センター研究報告第27号，109-112 平成16年9月

人工リーフに生育したカジメ（*Ecklonia cava*）の炭素，窒素及びリン含有量

山田 佳昭，木下 淳司

神奈川県小田原市沿岸の海岸保全を目的とした人工リーフを設置する際に造成した藻場におけるカジメを対象に，炭素，窒素及びリン量を調査し，藻場の水質浄化機能の定量化に関する基礎的知見を得た。

カジメ個体について，体長から湿重量を，湿重量から乾重量を，そして乾重量から炭素，窒素及

びリン量を見積もることが可能になる。

神奈川県環境科学センター研究報告第 27 号,89-92 平成 16 年 9 月

人工水路を利用した養殖ワカサギの簡易採卵法

井塚 隆

養殖ワカサギから大量の卵を効率的に得るため、放養池と人工水路および産卵場からなる採卵システムを試作した。約 7400 尾の親魚を収容したところ、水路から産卵場への遡上が観察された。産着卵は産卵場の底面においてのみ認められ、20 日間で約 1450 万粒の良質な受精卵を回収することができた。これにより、養殖ワカサギから種卵を大量生産することが可能になるものと思われた。

神奈川県農林水産統計・情報 2004・第 4 号

神奈川県におけるゼニタナゴ生息の現状と保護対策

勝呂 尚之

県内の最後の生息地では、護岸工事による環境悪化やタイリクバラタナゴの進入によりゼニタナゴは絶滅した。試験場では人工受精と自然産卵による 2 本立てで増殖技術開発を行ってきたが、大量生産には至っていない。場内のピオトープでは繁殖が確認された。

シンポジウム「関東地方におけるゼニタナゴの現状とその保護対策」講演要旨、平成 16 年 10 月

市民との協働（アマモ）

工藤 孝浩

本県におけるアマモ場造成事業は、平成 11 年に初めて横浜港において市民主導で実施された。その後は NPO 団体等に支えられて当所が事業化を図り、さらに NPO 団体等が事業推進を支援するという全国にも例のない展開をみせた。水産庁の水産基盤整備事業として造成事業を実施した平成 15 年以降は、地元「金沢八景 - 東京湾アマモ場再生会議」という様々なセクターが参画する中間支援組織が立ち上がり、種子の取り上げ、播種、株移植といった多くの人手を要する作業に多くの市民の参加が図られた。

平成 16 年日本水産工学会秋季シンポジウム「藻場造成・実践と課題」(日本水産工学会)

平成 16 年 11 月

Characteristics of Tidal Currents Observed at Five Mooring Stations in Sagami Bay

Ping Astony ANGMALISANG、Masaji MATUYAMA、Hironori ISHIDOYA、

Yujiro KITADE、Shizuo IWATA

Tidal currents in Sagami Bay were investigated by the long-term records of current and temperature obtained in the surface and deep layers at five mooring stations during the period from July to November, 1996. The time series and power spectra of the current and temperature records showed the semidiurnal period fluctuations at all stations.

La mer 42 平成 16 年 11 月

戻って来い！酒匂川と魚たち

勝呂 尚之

酒匂川で絶滅した魚と絶滅に瀕した魚を紹介する。本水域は、ナマズ、ホトケドジョウ、メダカ、カマキリ等の県下では珍しくなった絶滅危惧種が生息する貴重な水域である。その保全と復元のためには一般の人の川に対する興味を復活させることが重要である。

シンポジウム「今・さまよえる酒匂川」講演要旨 平成 17 年 2 月

ミトコンドリア 16S rRNA 遺伝子判別法によるキンメダイ卵および仔魚の同定と伊豆諸島周辺海域における分布様式

秋元 清治, 瀬崎 啓次郎 (日冷検), 三谷 勇, 渡部 終五 (東大農)

八丈島北方の伊豆諸島海域, 黒瀬海穴付近においてノルパックネットの表層曳きおよび鉛直曳き (水深 0-200m) で採集したキンメダイ属の形態的特徴をもつ卵 63 個, 仔魚 17 尾につき, ミトコンドリア 16S rRNA 遺伝子一部領域の RFLP および塩基配列分析により種同定を試みた。卵 10 個, 仔魚 6 尾については DNA 抽出できなかったが, 残りの卵 53 個および仔魚 11 尾は全てキンメダイと同定された。発生段階の異なる卵の分布様式からキンメダイは海底付近で産卵し, 卵発生に伴い海面近くまで浮上するものと考えられた。

日本水産学会誌 第 72 巻 第 2 号

相模湾におけるクラゲ類の出現と漁業への影響

木下淳司, 広海十朗 (日大生物資源)

クラゲ類の大量発生状況とその漁業への影響を, 相模湾の定置網漁業者を主対象としたアンケートにより調査した。ミズクラゲの大発生は少なくとも過去 20 年間を通じて, 湾内全域で発生していた。アカクラゲは湾東部で, アンドンクラゲは西部で大発生するとの回答があった。クシクラゲ類も定置網に多く入網する場合が見られた。クラゲ類が大量入網した場合には, 「魚が傷む」と「操業の邪魔になる」が複合した被害あり, さらに急潮発生時には定置網の流水抵抗を大きくし, 網の全損等の大きな被害を起こす危険を高めると考えられた。

日本プランクトン学会報 第 52 巻 第 1 号 平成 17 年 3 月

ホトケドジョウ種苗生産における最適親魚収容数および魚巢設置数

勝呂 尚之

ホトケドジョウの種苗生産を効率的に実施するため, 親魚の収容数と魚巢設置数について検討を行った。親魚の収容数は, 36L 水槽ではペアによる採卵が, 2t 水槽では雌雄 20 尾ずつの収容が最も効率的であった。ペアによる採卵試験から本種の産卵数は 1500 粒以上で, 期間は 2 月以上におよぶことがわかった。

水産増殖 Vol.53 (1) 平成 17 年 3 月

横浜における流域圏自然再生

工藤 孝浩

源流の森から海までの流域が徒歩半日圏に収まる横浜市の平潟湾流域における自然改変の歴史と「海浜清掃」, 「自然観察会」, 「潮干狩り・八ヶ釣調査」などの市民団体の取り組みと, その中で育まれた「水の軸線」を共有する流域内ネットワーク「金沢水の日」が形成され, その成果として「ヨシ原再生」, 「アマモ場再生」が実現した。そして, 多摩・三浦丘陵群を首都圏の新たな首都圏のグリーンベルトとして整備しようとする流域間連携の将来のビジョンを提示した。

第 2 回横浜・海の森づくりフォーラム・流域圏自然再生リレーシンポジウム 平成 17 年 3 月

横浜、川崎および中の瀬海域から初記録の魚類 -

工藤 孝浩

筆者らは, 東京湾内湾部の魚類相を明らかにするため, 横浜市内に水揚げされる漁船の漁場海域の魚類を調査して新たに発見された種について本誌上で報告しており (工藤・中村, 1994; 工藤ほか, 1996; 工藤・中村, 1999) 全報では合計で 306 種が記録されたことを述べた。本報告では, その後の 5 年間で新たに発見されて標本を収集することができた 10 種を追加報告した。うち, ハゴロモトビウオ, ツマリトビウオ, マトウトラギス, フェカワムキは東京湾からの初記録となる。

三浦半島南西部沿岸の魚類 -

工藤 孝浩，山田 和彦（相模湾海洋生物研究会）

筆者らは、相模湾の魚類相を明らかにするために 1988 年以降城ヶ島を中心とした三浦半島南西部沿岸の水深 10m 以浅で主にスノーケリングによる魚類の目視調査を実施している。これまでに 425 種を記録したが（工藤・山田，2003）、本報では 2002 年 10 月から 2004 年 10 月までの約 2 年間に新たに発見されて標本を収集することができた 27 種について報告し、工藤・岡部（1991）で標本未収集のまま報告した 3 種についても報告した。うち、リュウキュウヤライイシモチ、シチセンスズメダイ、バケヌメリは相模湾海域からの初記録となる。

神奈川自然誌資料（県立生命の星・地球博物館）第 26 号 平成 17 年 3 月

三崎魚市場に水揚げされた魚類・

山田 和彦（相模湾海洋生物研究会）・工藤 孝浩

筆者らは、相模湾の魚類相を明らかにするために 1984 年以降三崎魚市場に水揚げされた魚類の調査を継続し、これまでに 558 種を記録した（山田・工藤，2004）。本報では 2003 年 10 月から 2004 年 10 月までの約 1 年間に合計 36 回の調査を行い、新たに水揚げが確認された 6 種について記載した。うち、イトヒキサギ、ナガテングハギモドキ、カナフグは相模湾海域からの初記録となる。

神奈川自然誌資料（県立生命の星・地球博物館）第 26 号 平成 17 年 3 月

相模湾砂浜浅海域におけるヒラメとアミ類の種間関係

片山 知史（中央水研），一色 竜也，渡部諭史（中央水研），
福田 雅明（中央水研），工藤 孝浩，山田 敦

相模湾（葉山町長者ヶ崎海岸）において放流直後のヒラメ種苗の状況及びヒラメ種苗の主餌料生物であるアミ類の季節的消長を調べた。その結果、本海岸におけるアミ類は春季から夏季にかけて分布量が多いが、夏季以降減少していくことが明らかになった。夏季に放流され秋季（平成 15 年度）まで再捕された種苗に比べ、春季に放流され夏季まで再捕された種苗（平成 16 年度）は胃内容物重量指数が高く、アミ類の季節的消長に関係していると考えられた。また、ヒラメ種苗の胃内容物は同海域に分布するアミ類のうち密度の増減が少ない種ほど選択的に種苗に捕食されていた。

黒潮の資源海洋研究第 6 号 平成 17 年 3 月

マダカアワビ稚貝の殻表に形成される日周期的成長線の検証

對木英幹（東大院農），滝口 直之，山川 卓，青木 一郎（東大院農）

マダカアワビ *Haliotis madaka* の殻表に日周期的に形成される成長線の存在を証明する実験を行った。種苗生産した稚貝を alizarin complexone (ALC) 溶液へ 14 日間の間隔を空けて 2 回浸漬した。蛍光顕微鏡による観察の結果、殻の断面に認められた 2 重蛍光標識間の平均成長線数は 13.7 本（観察個体数 21，標準偏差 1.7 本）で、標識間の経過日数と一致した。天然海域への放流再捕個体の成長線の計数から逆算推定した放流時の殻長は、実測値とほぼ一致した。以上から、マダカアワビ殻表の成長線は日周期的に形成されると結論した。

日水誌，70(5)，682-686 (2004)

遊漁船の価格戦略 - P S M を用いた遊漁船の受容価格帯 -

小川 砂郎

PSM 手法を用い遊漁船の適正価格に関する調査を行ったところ、受容価格帯は、7,602～8,514 円となった。遊漁船の料金に対し、受容できる範囲にはあるが、高すぎると感じていることが窺えた。さらに、年代による受容価格帯の差が認められないこと、他のレジャー産業の例や統計資料等の結果から、今後シニア層を誘致するべきだと考察した。

北日本漁業経済学会誌 『北日本漁業』 第 33 号

8 研修生受け入れ

研修生	期間	人数	受入先	研修内容
日本大学 生物資源科学部	H16.4～H17.3	4名	内水面試験場	卒業研究 環境保全研究等
東京海洋大学	H16.4～H17.3	1名	内水面試験場	卒業研究 環境保全研究等
日本大学生物資源科学部	H16.8-H17.3の うちの2週間	18名	内水面試験場	インターンシップ研修
東京環境工科専門学校	H16.8	1名	内水面試験場	インターンシップ研修
神奈川県立三崎水産高等学校	H17.3	1名	海洋情報部	漁業無線実務

9 業績発表会

第19回 神奈川県水産総合研究所業績発表会プログラム

第1日目平成16年5月20日(木) 会場：水産総合研究所 水産セミナー室

神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子 TEL 046-882-2311

第2日目平成16年5月21日(金) 会場：相模川清流の里 会議室

神奈川県相模原市大島 3497-1 TEL 042-760-2711

【第1日目】

		開始	終了
1	開会	10:00	10:05
2	水産総合研究所長挨拶	10:05	10:10
3	進行説明	10:10	10:15
4	発表 (○：発表者)		
	「海や魚の性質を理解して魚をうまく捕まえよう。(漁海況)」		
101	携帯電話対応の海況図作成システム	樋田史郎○ 木村潤一 加藤俊明	10:15 10:30
102	2004年漁期のサバたもすくい漁況	岡部 久○	10:30 10:45
	「魚介類やその住みかを絶やさないうまく調べ、考えよう。(資源・漁場環境)」		
103	マイワシの初期成長について(2004年級早生まれ群を中心に)	船木 修○	10:45 11:00
104	相模湾のマアナゴ資源調査	清水詢道○	11:00 11:15
105	市民との協働によるアマモ場造成試験	工藤孝浩○ 木村 尚 (特定非営利活動法人海辺づくり研究会) 森田健二 (同上) 稲田 勉 (同上)	11:15 11:30
106	平成15年10月に発生したフィプロカブサジャポニカ赤潮と気象との関係	鎌滝裕文○	11:30 11:45
107	相模湾の海洋深層水	山田佳昭○	11:45 12:00
昼食.....		12:00 13:00
	「つくり育てる漁業で魚介類を増やそう。(栽培・養殖技術)」		
108	神奈川県におけるヒラメ種苗放流群と天然群の資源尾数及び漁獲係数の推定	一色竜也○ 相澤 康 中村良成	13:00 13:15
109	3倍体ヒラメの生物特性について	長谷川 理○ 金子栄一 木村トヨ子 熊谷民夫	13:15 13:30
110	ヒラメ種苗生産技術開発に伴う開発試験 2	一色竜也 山田 敦○ 原田 穰 中尾 満 星野昇 濱田信行	13:30 13:45
111	人工衛星画像・マルチビームソナーを活用したアワビ築磯漁場の評価	滝口直之 堀井豊充 (中央水研)	13:45 14:00
	「新鮮で良質な水産物を食卓へ届けよう。(水産経済・利用加工)」		
112	釣り人が考える釣り船料金の適正価格帯	小川砂郎○	14:00 14:15

113	カタクチイワシの利用法	菊池 康司	14:15	14:30
	・・・・・・・・休憩・・・・・・・・		14:30	14:45
	「漁具や魚の住みかを改良し、創造しよう。(水産工学)」			
114	定置網の側張に作用した2175日の流体抵抗の力積	石戸谷博範○	14:45	15:00
115	定置網に大被害を与えた急潮の実態と防災対策	石戸谷博範○	15:00	15:15
116	人工リーフに造成したカジメ藻場の維持更新と期待できる現存量	木下淳司○	15:15	15:30
117	人工リーフ周辺に出現した卵仔魚の同定および類型化	秋元清治○	15:30	15:45
		木下淳司 岡部 久 工藤孝浩 山本章太郎(西湘行セ水産課) 瀬崎啓次郎(日本冷凍食品検査協会) 李 鎮熙(東大農院) 陶 妍(同上) 渡部終五(同上)		
118	曳航式生簀網の開発試験	山本貴一○	15:45	16:00
119	定置網における小型イサキ分離方法の検討	石黒雄一	16:00	16:15
5	総合質疑		16:15	16:55
6	閉会		16:55	17:00

【第2日目】

			開始	終了
1	開会		13:30	13:35
2	水産総合研究所長挨拶		13:35	13:45
3	進行説明		13:45	13:50
4	発表 (○:発表者)			
	「川や湖、そこに住む生物について考えよう。(内水面)」			
201	人工水路を利用したワカサギの採卵技術	井塚 隆○	13:50	14:05
202	コイヘルペスウイルス病のPCR検査	原日出夫○	14:05	14:20
203	アユ冷水病経口ワクチンにおけるアジュバントの添加	原日出夫○	14:20	14:35
204	継代数の異なる人工産アユの種苗生産	相川英明	14:35	14:50
205	早川におけるアユの環境収容力	中川 研○	14:50	15:05
206	相模川における仔アユの降下と減耗その2	蓑宮 敦○	15:05	15:20
207	ホトケドジョウに適した魚道の検討	勝呂尚之○	15:20	15:35
208	ホトケドジョウの標識放流	勝呂尚之○	15:35	15:50
	・・・・・・・・休憩・・・・・・・・		15:50	16:05
	総合質疑		16:05	16:45
	閉会		16:45	16:55

10 シンポジウム「第4回・神奈川メダカサミット」

開催日	平成16年2月5日(土) 午後1時から5時
場所	生田緑地青少年科学館
共催	藤沢メダカの学校をつくる会・藤沢メダカの学校をつくる会PTA・新江ノ島水族館・内水面試験場
後援	藤沢市教育委員会
内容	メダカの保護を行っている市民団体と行政機関が情報交換を行い、本種の保全・復元の意義や技術的手法、問題点等について考えた。
開会のことば	南 英毅(藤沢メダカの学校をつくる会副会長)
あいさつ	堀 由紀子(新江ノ島水族館館長)
パネル発表	2004年藤沢メダカの学校有志
基調講演	神奈川県におけるニホンメダカの遺伝子鑑定～教材としての横浜在来種のメダカの可能性の探究
話題提供	内山 聖司(横浜市茅ヶ崎小学校教諭) 水田と用水路のどっちが棲みやすい? 樋口 広大(明治大学大学院農学研究科)

各地からの報告と話し合い

- コーディネータ 勝呂尚之(内水面試験場)
- 高橋由季(酒匂川水系のメダカと生息地を守る会)
- 中山和也(酒匂川メダカトラスト)
- 田中明子(鎌倉市企画部環境政策課)
- 武田史郎(葉山メダカの会)
- 柳井 晋(三浦メダカの会)
- 高橋良明(横須賀市上下水道局水再生課)
- 川地啓文(藤沢メダカの学校をつくる会)

新江ノ島水族館なぎさ体験学習館について 横山芳浩(なぎさ学習体験館飼育次長)
閉会のことば 青木公雄(藤沢メダカの学校をつくる会)

11 平成16年度予算

(1) 予算総括表

(単位：千円)

科 目	平成16年度	財 源 の 内 訳			平成17年度
		国庫支出金	そ の 他	一般財源	
水産総合研究所費	455,139	30,190	(使手)	166,035	731,157
水産業振興費			(財)		
			91		
			20,503		
			(諸)		
			36,320		

(2) 予算内訳表

(単位：千円)

科 目	平成16年度	平成17年度
1 水産総合研究所費	444,527	721,437
(1) 維持運営費	130,947	130,189
ア 水産総合研究所維持運営費	81,369	79,530
イ 相模湾試験場維持運営費	7,340	7,269
ウ 内水面試験場維持運営費	25,614	25,524
エ 漁業無線施設維持運営費	13,064	12,201
オ 浮魚礁維持運営費	3,560	3,560
カ 栽培漁業施設	0	2,105
(2) 試験研究費	87,265	98,484
ア 経常試験研究費	83,319	94,334
(ア) 一般研究費	37,320	47,136
・漁業資源環境調査事業費(江の島丸)	30,700	30,450
・うしお運航費	4,726	14,886
・一般試験研究事業費	1,894	1,800
(イ) 一般助成研究費	2,681	2,600
・資源管理型遊漁経営促進調査費	801	0
・水産動物保健対策事業費	816	800
・海況調査事業費	1,064	350
・地産魅力再発見事業	0	1,450
(ウ) 受託研究費	28,318	31,598
・一般受託研究費	28,318	26,598
・国庫受託研究費	0	5,000
(エ) 魚礁効果調査事業費	15,000	13,000
・魚礁効果調査事業費	5,000	3,000
・藻場造成試験調査事業費	10,000	10,000
イ 特定試験研究費	3,946	4,150
(ア) 重点課題研究費	3,946	4,150
・生物工学研究費	1,494	1,450
・沿岸漁業システム化推進事業費	1,955	1,800
・低利用水産資源活用研究費	497	900

科 目	平成 16 年度	平成 17 年度
(3) 水産業改良普及指導費	0	2,400
(ア) 水産業改良普及活動費	0	1,200
(イ) 漁業のにない手育成費	0	1,200
(4) 栽培漁業施設事業費	16,315	14,600
ア 栽培漁業施設運営費	2,215	0
イ 種苗量産技術開発事業費	11,920	12,420
ウ 栽培漁業施設整備費	2,180	2,180
(ア) 栽培漁業施設仮設ホヅ°設置費	2,180	2,180
(5) 漁業調査船建造調査費 *	6,000	0
(6) 漁業調査船建造費 *	204,000	475,764
ア 漁業調査船建造費	204,000	335,364
イ 漁業調査船機器整備費	0	140,400
2 水産業振興費	10,612	9,720
(1) 海業推進事業費	2,000	2,000
ア 魚価向上対策事業費 *	2,000	2,000
(2) 漁場環境保全対策費	3,134	3,120
ア 漁場環境維持保全対策事業費	720	720
イ 健全な内水面生態系復元事業費	2,414	2,400
(ア) カワウ食害防止総合対策	2,414	2,400
(3) 栽培漁業振興事業費	5,478	4,600
ア 栽培漁業放流技術開発事業費	3,510	2,000
(ア) 栽培漁業放流技術開発事業費	3,510	2,000
イ 複合的資源管理型漁業推進対策事業費 *	1,768	2,200
ウ まだい資源増大促進事業費 *	200	400

* 水産課等で執行されるものを含む。

12 職員配置（平成17年3月31日現在）

組 織	氏 名	分 掌 事 務	事務吏員	技術吏員	技能吏員	計
水産総合研究所長	岡 彬	所の総括		1		1
副所長(兼)管理部長	藤川 隆	所長の事務代理、管理部の総括	1			1
管理課長	岡本 武志	管理課の総括	6			6
船舶課長	星野 哲	船舶課の総括	1	1		2
江の島丸船長	奥村 弘幸	江の島丸の総括		15		15
企画経営部長	高間 浩	試験研究の企画調整、漁業経営・流通・加工技術の調査研究、漁業情報・漁業技術の調査研究に関すること		5		5
資源環境部長	亀井 正法	漁業環境の調査研究、資源生態・漁況の予報の調査研究、資源管理方法の開発研究に関すること		5		5
栽培技術部長	今井 利為	水産物の増養殖、生態の試験研究、種苗の生産及び放流の研究開発に関すること		8	8	16
海洋情報部長	高田 啓一郎	水産情報の収集、提供及び調査研究、漁業無線通信施設の運営及び維持管理、漁業無線の指導、気象の観測に関すること		10		10
相模湾試験場長	卯月 雅裕	場の総括		8		8
次 長	宇佐美 健	事務の総括(兼)	(4)			(4)
内水面試験場長	作中 宏	場の総括	1	7	1	9
合 計			(4) 9	60	9	(4) 78

()は兼務職員外数